

会報・案内

第60回電子情報委員会議事録

日 時：平成14年 2月 3日(日) 9:00～12:30
 場 所：慶應義塾大学医学部第2会議室
 出 席：稲邑清也(副委員長), 安藤 裕(), 煎本正博,
 江本 豊, 越智 誠, 木村通男, 紀ノ定保臣,
 佐々木康夫, 島本佳寿広, 西谷 弘,
 松井美楯(JSRT), 倉西 誠(JSRT)各委員
 欠 席：石垣武男(委員長), 大山永昭, 黒田知純,
 佐古正雄, 澤田 敏, 滝沢正臣, 森 宣,
 三宅秀敏, 宮坂和男, 小寺吉衛(JSRT)各委員

配付資料:

- (1) 第59回電子情報委員会議事録案
- (2) IHE J発足にあたり
- (3) IHE J趣意書
- (4) CyberRad委員会議事録案
- (5) IHE Jガイドライン検討WG会合議事録(案)
- (6) CyberRad2002デモ仕様検討WG 画像検査SWG会合議事録(案)
- (7) 電子情報研究会 第1回遠隔画像診断部会のご案内
- (8) 遠隔放射線診療委員会議事録(案)
- (9) JS&C委員会, WG14 DICOM規格の国内対応第6回議事録

及び添付資料

- DICOM WG8, WG15, DICOM SR関係文献目録
- (10) JRS CEISからIVR学会, カテーテル治療学会宛の書簡
- (11) HELICS関連資料1式

議事内容:

1. 前回議事録の確認
特に修正なく承認された。

2. ガイドライン

石垣委員長が本日欠席のため, 次回に延期した。

3. CyberRadの準備報告

CyberRadで行うテーマ展示について, IHEのデモ(HIMSS: Healthcare information management system society)の印象の報告が木村・安藤委員よりあった。デモの対象は, 病院情報システム担当者の印象があり, 技術的にかたよりが懸念された。日本で行うCyberRadでは, 対象者を放射線科医・放射線技師などとし, わかりやすくする。

シナリオ:

- (1) 交通外傷で頭部, 胸部, 腹部などのCTを行い, 異常が認められ血管造影を追加し, オーダーできる。
- (2) 胸部X線で異常が発見され, 腹部CTを追加し, 患者トラッキング機能で患者を呼び戻し, 腹部CTを追加検査し, 報告書に胸部X線・CT画像の結果が追加されて, 患者に説明できる。CyberRadでは, 1時間に30分のデモ・ツアーを行い, 残

りの30分をチュートリアルを行う。厚生労働省や経済産業省の人も呼ぶ予定。

4. HELICS

薬剤コードの審査を開始したとの報告があった。

5. 遠隔画像診断小委員会との合同会議

遠隔画像診断部会の立ち上げ準備会議議事録の承認

本日午後1時-5時まで 第1回遠隔画像診断部会のご案内
 佐藤先生, 真野先生にそれぞれ基調報告をお願いしている。基調報告の座長を稲邑先生, 指定発言の座長を煎本先生をお願いした。

今後の検討課題:(1)精度管理,(2)診療報酬,(3)研究発表など
 煎本先生: 専門医会, 外保連の立場から

画像診断管理料(45点)の場合は, もと厚生省から連絡があった。

厚生労働省から問い合わせがあったときに, 遠隔画像診断の件数, 遠隔放射線診断の定義(病理の場合は, 病理医がいない病院から, 病理医のいる病院に送った場合)などを準備しておきたい。

専門医会としては, 放射線専門医が診断したら遠隔画像診断でも同様に画像診断管理料を要求したい。

実態調査: 煎本先生を主体に, 調査する。業者, 県や都(行政医療)の件数を4月までに行う。

定義: 意識調査のアンケートの文案を考える(メーリングリストを使用する)。

真野: 遠隔画像診断については平成9年から厚生省は, すでに認知している。認知していることは保険点数を付ける可能性がある。使用している機器やレベルについて基準が必要となる可能性がある。遠隔診断では, 契約が重要。株式会社(セコムやネットホスピタル), 病院, 読影医との3者の関係が重要。読影医が読影に責任を負うべきと考えているので, 患者と読影医が直接契約する形にしておき, 保険点数をつけ, 直接費用を払うべきである。自由競争市場とすればリスク管理も企業が自らやる必要があり, 限られた枠となろう。しかし診断の医療行為に国の責任が介在すれば厚生労働省が責任をもって診療報酬点数をつけることとなる。

遠隔病理診断では, 術中迅速病理診断料(病理医がいないと請求できない)の条件を満たせば, 遠隔病理診断料が請求できればよい。

佐藤: セコムは, 病院が読影委託契約をして読影医が入りこんでいる。一方, ドクターネットは, プロバイダに徹しておりトランザクションを仲介してその料金は読影料と切り分けている。セコム方式は, 臨床検査センターと同じことになる。保険診療ではリスクマネジメントを含む, セキュリティーの費用も考えて欲しい。

外保連・内保連では, 診断料(450点), 画像診断加算(45点)との比重の格差が大きすぎるので, 変更して欲しい。45点を画像管理

加算にも認めて欲しい。もっぱら診断を行っている者が診断した場合、高額医療機器を共同利用した場合、他院から5%以上を受け入れている場合、加算がある。

厚生省と専門医会が話をする場がない。厚生労働省の人に来てもらってオブザーバーの人の意見を聞く。保険局、健康政策局などの人を呼ぶ。

アメリカでは遠隔画像診断が、75%日常化している。

アメリカでは、FDAのViewerの規制があるという。

放射線医が独立して読影センターで読影できるようにすべきである。国立大学病院は現在は規程上できない。

第2回遠隔画像診断部会・IS&C普及委員会医用画像電子化研究会共催で実態調査の報告・機器の基準などを検討する。

6. 標準化小委員会の報告

稲邑副委員長より報告。ISO, DICOM委員会, SR報告書について報告があった。SR報告書については、レポート研究会を立ち上げる必要がある。秋の電子情報研究会のときのテーマとして検討をする提案があった。レポートに関する研究会を秋季臨床研究会の電子情報委員会のときに発足させることが提案され、石垣先生と稲邑先生が協議し、原案を作成する。

次回委員会：4月の総会

議題：

ガイドライン

実態調査の結果

CyberRadの報告(IHE)

第2回遠隔画像診断部会プログラム(担当：安藤、煎本)

セキュリティー

その他

掲載する。

9. ホームページ上のマニュアルは見易い階層に上げてもらう。

10. ホームページ上に事故事例の提供依頼を掲載する。

学会・研究会等のお知らせ

1. 第8回国際シェーグレン症候群シンポジウム金沢
2. 平成14年5月16(木)-18日(土)
3. 石川県立音楽堂(金沢駅隣), 金沢全日空ホテル, 金沢医科大学

演題締め切り日：2002年1月31日

4. 連絡先：〒560-0082豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフセンタービル14F 学会事務センター関西

第8回国際シェーグレン症候群シンポジウムホームページ

<<http://edpex104.bcasj.or.jp/iss/>>

E-mail: iss8th@bcasj.or.jp

Fax: +81-6-6873-2300

Tel: +81-6-6873-2301

第7回医療事故防止委員会議事録

日 時：平成14年2月6日(水)18:00~20:00

場 所：学士会館赤門分室2号室

出 席：平松慶博(委員長), 板井悠二(理事),
遠藤啓吾(理事), 山下 孝(理事), 本田憲業,
廣川 裕, 橋本 統各委員

欠 席：隈崎達夫(総務理事), 甲田英一, 高山 誠,
成松芳明, 吉川宏起各委員

議 事

1. 第6回議事録を承認した。
2. 虎ノ門病院事故および大蔵病院事故を追加する(山下)。
3. IVR関係の指針に線量測定の事項を追加する(橋本)。
4. MRI死亡事故は事例にいれる。
5. マニュアル(案)を委員全員で見直し, 問題点をメールで送りまとめる。
6. 4月5日の学会期間中の理事会で承認を得て, 学会誌に掲載する。
7. 別冊を1,200冊作成し, 修練機関の院長, 放射線科責任者, 関連学会などへ送る。
8. 個々の事故事例が特定できないようにし学会ホームページに